



もりのふしぎ

もりをまもる「かんばつ」

イラスト/たけだあおい

このコーナーでは、お子さま向けに環境問題・自然のことに関する言葉をポロンといっしょに学んでいきます。ぜひご家族で対話のきっかけにしてください。



たいへんだワン！
きがきられちゃってるワン！

これは「かんばつ」をしているもりなんだロン。



「かんばつ」ってなんだワン？

きがたくさんはえすぎるともりがぐらくなってきがそだたず、いきものすみにくくなるロン。たいようのひかりがよくあたるように、きをきってひろくしてあげるんだロン。



きったきは どうなるワン？



きられたきは、いえをつくるざいりょうや、ふんぼうぐなどにうまれかわるロン。「かんばつざい」をつかうことは、もりをまもることにつながるロン！



おうちの方へ 日本の森は約2,505万haあり、国土の約3分の2を占めています。そのうち約3割がコナラなどの里山林、約4割がスギなどの人工林にあたります。これらはいずれも人の手で育成させた森林で、人の手が入らない原生林と異なり、健全な森を維持するために適度な手入れが必要になります。間伐により地表に光が差し込み、下層植生の発達が促され森林の持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能などが増進します。間伐材は建築材や生活用品、バイオマス燃料等に利用され、経済的にも持続可能な森林経営に資することができます。

【参照】林野庁サイト 【監修】セブン-イレブン記念財団 高尾の森自然学校 後藤章



←子どもたちのボランティア活動による間伐作業
(高尾の森自然学校)